

経済人コーポラト会議日本委員会

ニッポンCSRコンソーシアム

2016 ステークホルダー・エンゲージメントプログラム

SDGsと市民社会

～参加とパートナーシップ～

2016/6/15

一般社団法人 環境パートナーシップ会議 (EPC)
星野智子

環境パートナーシップ会議（EPC）

環境パートナーシップ会議（EPC）は、地域の環境団体や、政策提言を行う環境NGOを支援し、企業や政府とつなぐこと（パートナーシップ）によって、課題を解決に導く新しい力を生み出すことを目的に活動している組織です。

日本でもパートナーシップ型の社会へ

「パートナーシップ」によってより効果を上げる。立場の異なる組織や人同士が、明確な目的のもとに、対等な関係を結び、それぞれの得意分野を生かしながら、連携し協力し合う。

ポイント

- ・ 対等な関係
- ・ 情報を共有し意思決定に参加
- ・ 特性や能力を生かした役割を分担

Agenda21

Calling for the involvement of major groups in the implementation of sustainable development

The role of NGOs is identified in the chapter 27

Keywords; “Partnership” and “Participation”

EPCのミッションとコンセプト

ミッション

- 持続可能な社会を目指し、多様な主体をつなぐ役を果たすことで、参加による課題解決に貢献する。

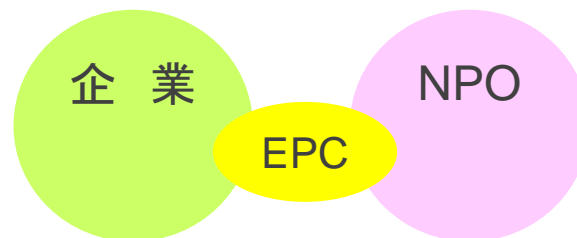
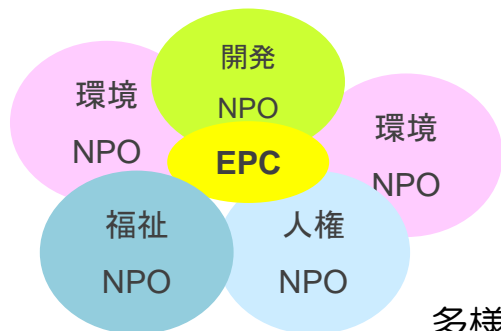
コンセプト

さまざまな機会・時間・空間で

さまざまな“つなげる”をプロデュースし、発信する。

- “セクターをつなげる”
企業、NPO/NGO、中央省庁、自治体、研究者、生活者、青年…
- “地域をつなげる”
各地のNPO、全国のパートナーシップ拠点、まちとむら…
- “分野をつなげる”
福祉、人権、国際協力、ジェンダー、…

さらに、“世界をつなげる”、“未来へつなげる”、…



多様な主体と主体をつなげるコーディネーション機能

環境パートナーシップ会議

- **代表理事：廣野良吉（ひろのりょうきち）**

成蹊大学名誉教授、政策研究大学院大学（GRIPS）の客員教授。1959年にシカゴ大学を卒業し、日本と海外の国際開発および評価について広範な実務経験を持つ。国連経済社会理事会（ECOSOC）開発政策委員会の議長を務めたほか、アジア開発銀行（ADB）、国連開発計画（UNDP）など数多くの国際機関に勤務。長年にわたり、客員教授としてアジア、南北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアで教鞭を執った。現在は、日本評価学会の顧問および国際開発評価学会（IDEAS）の副会長に就くほか、国連大学のシニア・アドバイザーなど多数の諮問委員を務める。

- 理事：星野智子（副代表理事）
- 理事：秋山典子（事務局長）
- 理事：後藤敏彦（サステナビリティ日本フォーラム 代表理事）
- 理事：黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク 理事・事務局長）
- 理事：須藤美智子（(特活) 日本ボランティアコーディネーター協会 委員）
- 理事：竹田純一（農山村支援センター 事務局長）

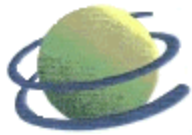
設立：2006年12月

職員数：18名

住所：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 B1F

＜環境パートナーシップ会議（EPC）の主な事業＞

- 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営
- サステナビリティCSOフォーラムの運営 <http://sus-cso.com/>
- 企業のボランティア・社会貢献活動のコーディネート
- 企業のCSR業務コンサルテーション
- NPOのSR（社会的責任）の普及・向上
（「社会的責任向上のためのNPO／NGOネットワーク」幹事団体）
- 持続可能な開発のための教育（ESD）促進事業
- 国連生物多様性の10年日本委員会 事務局
- 政府の基金設置・管理事業



地球環境パートナーシッププラザ

Global Environment Outreach Centre (GEOC: ジオック)

<http://www.geoc.jp>

- 1996年10月に設立 地球環境に関する環境情報とパートナーシップの拠点 (渋谷区 国連大学1F)
- 環境省、国連大学、NPOの民間スタッフが共同で運営。
- 環境団体のイベント情報ホームページ、メールマガジン発行、企業や行政の環境取り組みや地域づくり、全国EPOネットワーク、環境ビジネスモデル事業、環境政策に関するセミナー・シンポジウムの企画・開催、国連機関との連携で国際プロジェクトの実施などを行っています。
- 開館時間：火～金曜日 10:00-18:00 土曜日は17:00まで



展示



セミナー



研究・調査



ライブラリー

国際プロジェクトへの貢献

SCP10年枠組(10YFP)

ヨハネスブルグ実施計画(2002年)において国際的合意、Rio+20(2012年、成果文書「The Future We Want」)にて採択。

6つの「プログラム」

- 持続可能な公共調達(2014年4月発足)
- 消費者情報(2014年7月発足)
- 持続可能な観光、エコツーリズム(2014年11月発足)
- **持続可能なライフスタイル及び教育(2014年11月発足):**
 - co-lead : 日本(環境省)、スウェーデン、WWF**
- 持続可能な建築・建設(2015年発足予定)
- 持続可能な食糧システム(2015年発足予定)



- トラストファンド: 10YFP全般、プログラム、プロジェクトの実施に必要な資金
- クリアリングハウス: プログラム、プロジェクト等の情報ポータル
- 10YFP事務局(UNEP・パリ)
- 理事会(日本は理事会メンバー)



○SDGsと環境問題

- ・健全な地球環境なしには、社会も経済も成り立たない。（自然資本、生態系サービスの減少）
- ・生物多様性の損失による経済的影響は年間2～4.5兆米ドル(ビジネスのための生態系と生物多様性の経済学:TEEBによる試算)(国内の干潟が有する生態系サービスの価値は年間約6,103億円: H25年度環境白書)
- ・17目標のほとんどが環境課題とつながっている。
（水、都市、インフラ、食料、消費と生産、健康etc.
例：地球温暖化→自然災害→環境難民→貧困、紛争、テロの増大→社会不和
→疾病の増大→保険・医療費の増大→経済的損失

○推進・拡散していただきたいこと

- ・地球温暖化防止、生態系保全、循環型社会形成に向けた取組みへのコミット
- ・環境教育、持続可能な開発のための教育（ESD：2004年に日本が国連に提唱）の推進

OSDGsと地方創生

日本の各地で直面している主な課題

- ・自治体消滅の危機
- ・労働人口の減少、少子高齢化
- ・社会保障の負担増加
- ・一次産業衰退による里地里山の多様性低下
- ・女性の地位
- ・災害への対応、震災復興

世界各国（特に経済発展途上国）がこれから経験するであろう課題が山積。課題先進国である日本の解決策を世界は注視している。日本のあらゆる力で国内課題解決と、国際協力を。



SDGsは上記のような課題を横断的、総合的に俯瞰できるチェックシートとしても機能。地域課題を発見・解決するきっかけに…。

自分の地域のための、地域による
持続可能な“地域”目標づくりを各地で、
MSP(マルチステークホルダープロセス)で。



多様な主体とつくる

- 地域全員に関わること。
- 役割分担。資源を出し合う。

パートナーシップで

- 1人、1組織、1セクターでは解決できない課題がある。
(→相乗効果を上げていかないと間に合わない)

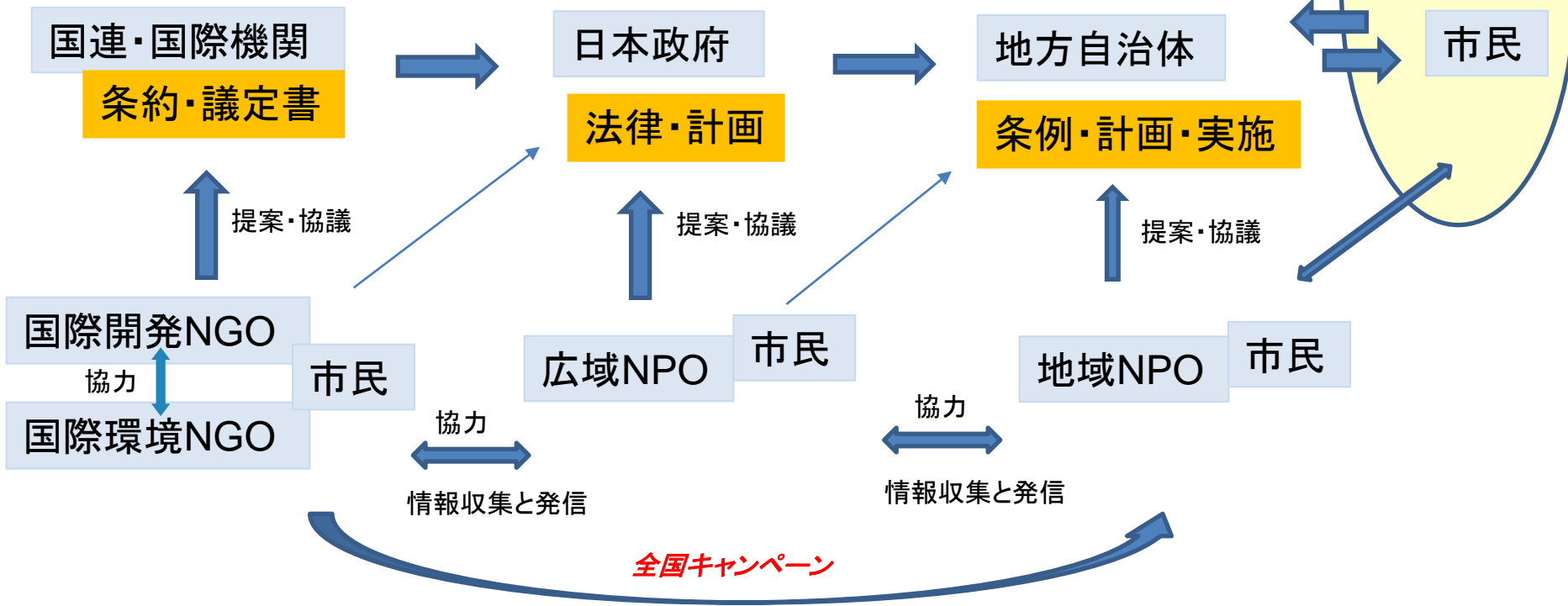
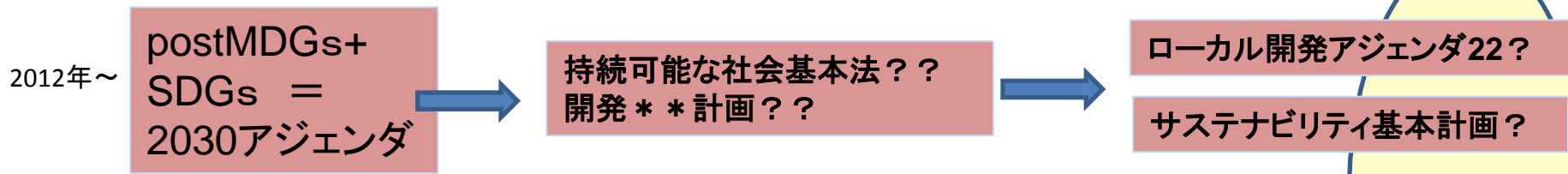
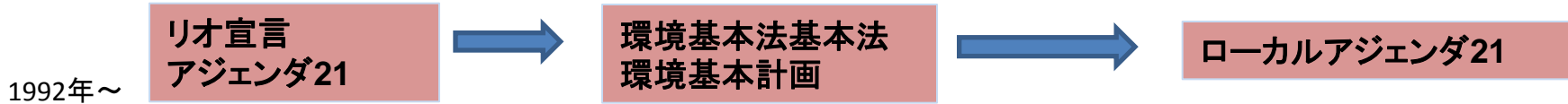
これに関わることで自身が
ESD(持続可能な開発のための教育)そのもの。

Education for
Sustainable “Community”
Development
(地域の発展)



地域・課題別
円卓会議の推進

目標16 ガバナンス、情報・司法へのアクセス
目標17 官民・市民社会のパートナーシップ推進



ご清聴ありがとうございました。

星野智子 hoshino@epc.or.jp



メールマガジンを発行しています。

○SDGs関連情報

サステナビリティCSOフォーラム

<http://sus-cso.com/>

※SDGs冊子をダウンロードできます。

○環境・パートナーシップイベント情報

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

<http://www.geoc.jp/>

※環境ボランティア情報冊子をダウンロードできます。（環境ボランティアなび2016）